

広島県が主導する広島型建築プロポーザルにおける 体制とプロセスからみる仕組みに関する研究

設計者選定 広島型建築プロポーザル
プロポーザル方式 プロセス 継続性

2215014 小林 航明
指導教員 脇坂 圭一

1. 研究概要

1- 1. 研究の背景

現在の公共建築の設計者選定方式は、入札方式が約7割を占めている（図1）。そこで、「官公庁施設の設計業務委託方式の在り方」で入札に代わる選定方式としてプロポーザル方式が提示された（文1）。金額によって決まる入札方式に対して、「プロポーザル方式は、提出された技術提案に基づいて仕様を作成する方ため優れた成果を期待できる」（文2、文3）とされている。このように、プロポーザル方式では、「技術提案」や「ひと（者）」で設計者が選ばれ、市民が満足できるような建築の質を求めやすい傾向にあり、継続した事業により、街に質の高い建築が増えると予想される。

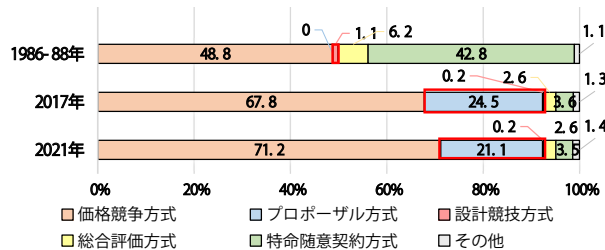


図1. 公共工事における設計発注方法の推移

1- 2. 本研究の目的

10年以上にわたり現在まで高いレベルで継続している広島県には、継続的に運営されている特徴があるのではないかと考えた。

そこで本研究では、先進事例として、広島県主催のプロポーザル事業を採り上げ、事業の継続性を明らかにすることを目的とする。具体的な目的は以下の3つである。

- 1) 広島型建築プロポーザルの実施に至るまでの取り組みを明らかにすること。
- 2) 広島型建築プロポーザルにおける企画段階の取り組みを明らかにすること。
- 3) 広島型建築プロポーザルにおける発注段階の取り組みを明らかにすること。

1- 3. 既往研究の到達点と本研究の位置付け

日本におけるプロポーザル方式の事例では、札幌市建築部主催プロポーザル方式の運用体制と提案に関する研究（文4）、群馬県内における設計者選定方式の展開と外部支援団体の役割に関する研究（文5）、等、特定の地域の設計者選定に関して研究するものが多い。また、審査要領や審査プロセスに関する研究は多くの蓄積があったが、事業実施前に注

目している研究は見られなかった。そのため、本研究では、事業の実施前に加え、企画・発注段階に注目をする。本研究では、蓄積の無い広島県の広島型建築プロポーザルを採り上げ、それについて掘り下げていくことにする。そして、広島県における企画段階、設計段階のプロセスについて明らかにする研究を行うこととする。

2. 研究対象と研究方法

2- 1. 本研究の対象

本研究では、設計者選定方法において、プロポーザル方式を採用しており、継続的な事業として行っている「広島型建築プロポーザル」を研究対象とした。

2- 2. 研究方法と構成

広島県におけるプロポーザル方式を明らかにするために、文献資料から広島県におけるプロポーザルの展開を整理した。その上で、

- ①事業の実施に至るまでの取り組み
- ②企画段階の取り組み
- ③発注段階の取り組み

広島型建築プロポーザルの上記の3つの段階において継続性を明らかにするため、3の段階をさらにプロセスに応じて分類した。

また、プロセスを見るうえで、人の関係、組織体制が重要な役割を果たしている。そこで、広島型建築プロポーザルに関わった経験のある立場の異なる3者にヒアリング調査を行った。計23質疑項目を3者に同様のヒアリングを行い、ヒアリングで得られたテキストデータを基に、3者の立場の違いから見える広島型建築プロポーザルへの関わり方、実態、課題等を整理した。

そして、3章、4章、5章では、整理したテキストデータを基に、該当するプロセスにおいて、広島型建築プロポーザルの継続性がみられるキーワードを抽出し、広島型建築プロポーザルの継続性について分析、考察を行った。

6章ではヒアリングで得た情報を整理したうえで、国土交通省のプロポーザル方式におけるマニュアルと比較した。

2- 3. ヒアリング対象

I. 現・広島県建築土木局営繕課 主任 室島正明氏
広島型建築プロポーザルの企画、運営、審査、進行のコントロールをしている。: II. (株)広島建築住宅センター（元・営繕課課長、建築部長）的場弘明代表取締役社長 3年前まで広島県建築土木局営繕

課で働かれ、広島型建築プロポーザルの当時の状況を知っている方。現在は、(株)広島建築住宅センターの代表取締役社長に勤めている。：Ⅲ．広島大学大学院 角倉英明 准教授 図9より、広島中央警察署本通交番（プロジェクト17）、県営引野住宅Aブロック（プロジェクト19）、三原旅客ターミナル（プロジェクト24）の審査員を務めた。

3. 広島型建築プロポーザルにおけるプロセス

本章では、広島型建築プロポーザルにおける「広島型建築プロポーザル実施前段階」、「企画段階」、「発注段階」におけるプロセス、ヒアリング項目、広島型建築プロポーザルに関わる人（組織）を整理した（図2）。

3. 広島型建築プロポーザル実施に至るプロセス

3-1. 基盤となった事業

広島型建築プロポーザルの基盤は、1949年に実施された平和記念公園設計競技（注1、図2P1）とある（文6）。

3-2. 実施に至るきっかけ

現在、広島型建築プロポーザルで掲げられている「ねらい」（図3）は、広島型建築プロポーザルの実施に際して現在の4つの姿ではなく、表1の1、

表1. 掲げる4つのねらい

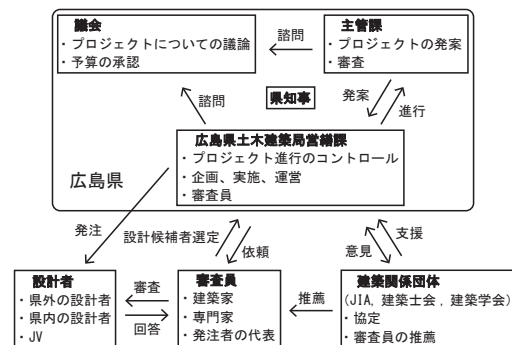
事業開始当初に掲げられた「ねらい」	1	特色	参加資格のオープン化
		取り組み	参加資格条件を緩和、門戸を広げる
		ねらい	公平に幅広く優れた提案を集める。
	2	特色	建築関係団体との協定に基づく審査委員の選定
アップデートによって追加された「ねらい」		取り組み	プロジェクトごとに審査員を選定する
		ねらい	審査員の固定化を防ぐ。
	3	特色	技術提案書を重視した審査
		取り組み	実績のみならず、技術提案書を重視した審査を行う
アップデートによって追加された「ねらい」		ねらい	優れた設計者を選定する。
	4	特色	公開ヒアリングなどの審査過程を透明化
		取り組み	公開ヒアリング、評価要項・技術提案書の公開
		ねらい	公平性・透明性を確保する。

2の2つのねらいを掲げていた。

3-3. 組織体制

広島型建築プロポーザルの組織体制図を以下に示す（図3）。また、広島県では、広島県下の市町への支援を行っている（表2）。県全体で魅力的な建築を増やすという「魅力ある建築物創造事業」との一体性のもとで展開されている。室島氏は「とにかく県内に魅力ある建物が増えてほしい」という思いを持たれている。

広島型建築プロポーザル 組織体制



広島県下の市町 組織体制

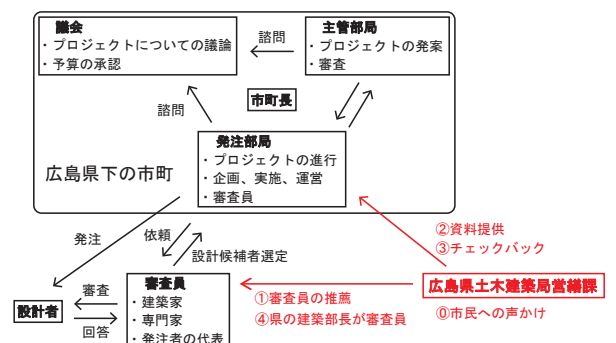


図6. 広島型建築プロポーザル 体制図比較

段階	章	章節	質疑項目	プロセス	広島県		建築関係団体	審査員	設計者	
					主管課(発注部署)	営繕課				
広島型建築 プロポーザル 実施前	3 章	3-2	①	P1	平和記念公園設計競技 (1949年)					
		3-3	②	P2	事業実施前の発注方式(指名競争入札)					
		3-4-2	③	P3		参考自治体				
		3-4-3	④,⑤,⑥	P4	建築関係団体との協定締結					
		3-5-1,3-5-2	⑦,⑧,⑨	P5	広島型建築プロポーザル開始					
企画段階	4 章	4-2,4-3	⑩,⑪,⑫	P6	プロジェクトの選出					
		4-4	⑬,⑭	P8		審査員の選定				
発注段階	5 章	5-2	⑮,⑯	設計と条件、設計業務委託内容、参加資格条件、発注スケジュールの設定 審査基準の設定	「審査部会1」					
		5-3	⑰,⑱							
					P10					
			⑲		P11					
		5-4	⑲		P12	「審査部会2」1次審査 参加表明書の評価、技術提案書の提出者の選定（公開）				参加表明書、簡易提案書の提出
			⑲		P13					技術提案書の提出
		5-4	⑲		P14	「審査部会3」2次審査 設計者選定（公開プレゼンテーション、ヒアリング）				
					P15	発注				
設計段階				P16			助言	ワークショップ等		
				P17				設計		
施工段階				P18	施工管理		助言	施工監理		
				P19				竣工		
運用段階				P20	監理・運営					
				P21	利用者満足度調査					
				P22	改修工事					

図5. 広島型建築プロポーザルのフロー図

3-4. プロジェクトの選出

広島型建築プロポーザルにおけるプロジェクトの選出では、当初は延床面積 2,000㎡ 以上の新築建物を対象とするという明確な基準が設けられていた。しかし、その後は単なる規模だけでなく、象徴性・

表 2. 市町への支援

段階	支援内容
0	市町への声かけ
1	審査員の推薦
2	1 段階目 + 諸資料、知識の提供
3	2 段階目 + 市町の制作した資料のチェックバック
4	3 段階目 + 広島県の建築部長が審査員に参加

記念性・独創性・デザイン性といった建築の質的側面を重視する方向へと発展した。

プロジェクトの選出過程では、設計者の育成という視点も重視されている。例えば、県営引野住宅 A ブロック（図 7 参照、プロジェクト 19）では、地元で豊富な実績を有する株式会社村田相互設計と、若手建築家である株式会社 UID の前田圭介氏が共同で参加する JV 方式が採用された。さらにこの経験を通じて前田氏が実績を積み、次の県営向ヶ丘住宅 15,16 号館プロジェクト（図 7 参照、プロジェクト 23）では単独で設計者に選定された。

図 7. 広島型建築プロポーザルのフロー図

広島型建築プロポーザル プロジェクト一覧

	公示日	プロジェクト名	設計者	県内		県外		竣工
				組織設計	アトリエ	組織設計	アトリエ	
1	2013	県営吉島住宅（仮称）3 期	土井一秀建築設計事務所、有限会社松岡建築設計事務所		〇〇			2015.5
2		県立広島学園（管理棟及び体育館）	村上徹建築設計事務所、吉田豊建築設計事務所				〇〇	2015.3
3		広島県立広島南特別支援学校呉分校	株式会社アトリエ・アンド・アイ遠藤建築スタジオ				〇	2016.5
4		広島県立芦品まなび学園高等学校	大旗連合建築設計株式会社	〇				2016.3
5		広島県立大崎海星高等学校	ナフ・アーキテクトアンドデザイン有限公司、仲子盛進総合環境デザイン株式会社		〇		〇	2015.12
6		広島県立府中高等学校	株式会社感性舎	〇				2016.2
7	2014	広島県立福山誠之館高等学校	大旗連合建築設計株式会社	〇				2016.3
8		広島県立福山商業高等学校	株式会社あい設計	〇				2016.3
9		広島県立世羅高等学校	大旗連合建築設計株式会社	〇				2016.1
10		県営吉島住宅（仮称）4 期	株式会社あい設計	〇				2016.2
11	2015	広島東警察署	株式会社山下設計関西支店、株式会社 NSP 設計	〇		〇		2018.6
12	2016	蔵島港宮島口地区旅客ターミナル	有限会社乾久美子建築設計事務所				〇	2020.2
13		広島県立広島南特別支援学校	株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ、土井一秀建築設計事務所		〇	〇		2020.1
14		県営熊野住宅	株式会社感性舎	〇				2020.2
15		広島県庁本館等耐震改修	株式会社日建設計、株式会社近代設計コンサルタント	〇		〇		2022.3
16	2019	広島南警察署	大旗連合建築設計株式会社	〇				2023.7
17		広島中央警察署本通交番	南俊光建築設計事務所		〇			中断中
18	2020	県営熊野住宅南ブロック	大旗連合建築設計株式会社	〇				2025.1
19		県営引野住宅 A ブロック	村田相互・UID 設計共同体（株式会社 村田相互設計・株式会社 UID）	〇〇				2024.8
20	2021	福山東警察署駅前交番	株式会社メトロ建築研究所				〇	2023.3
21	2022	県営鯉池住宅	株式会社あい設計、株式会社 UID	〇〇				工事中
22		県営第三上安住宅（仮称）	株式会社あい設計	〇				設計中
23	2023	県営向ヶ丘住宅 15,16 号館	株式会社 UID	〇				設計中
24	2024	三原旅客ターミナル（仮称）	オクトパス設計共同体					設計中
25		警察本部別館庁舎（仮称）	久米設計・大旗連合共同（大旗連合建築設計株式会社）	〇		〇		設計中
26		県営日吉台住宅 1 期	山下貴成建築設計事務所		〇			設計中

	公営住宅
	学校施設
	行政施設
	拠点施設
	複合施設

広島型建築プロポーザル プロジェクト一覧

市町への普及（県の技術的支援を受けたもの）

	公示日	プロジェクト名	設計者	県内		県外		竣工
				組織設計	アトリエ	組織設計	アトリエ	
1	2013	福山市新支所・新公民館	株式会社あい設計	〇				2016.5
2		三次市農業交流連携拠点施設	ナフ・アーキテクトアンドデザイン有限公司		〇			2015.3
3	2014	神石高原町宮小島住宅	土井一秀建築設計事務所		〇			2016.1
4		庄原市斎場	株式会社 NSP 設計			〇		2018.9
5		道の駅びんご府中	シーラカンスケイアンドエイチ株式会社			〇		2016.3
6		広島みらい創生高等学校	株式会社久米設計、株式会社あい設計	〇		〇		2017.7
7	2015	呉市営プール	株式会社久米設計大阪支社、株式会社あい設計	〇		〇		2019.2
8		呉市消防局・西消防署	株式会社佐藤総合計画関西事務所、株式会社村田相互設計	〇		〇		2019.12
9		府中市こども国	大旗連合建築設計株式会社	〇				2018.3
10		三原市役所庁舎	株式会社山下設計関西支店、株式会社 NSP 設計			〇		2019.4
11		尾道市因島総合支所庁舎	株式会社あい設計	〇				2019.6
12		福山市新総合体育館	株式会社梓設計、今川建築設計					2019.12
13		庄原市西城保育所	有限会社山谷建築設計事務所					2020.3
14	2018	江田島市消防本部	株式会社村田相互設計					2019.1
15		三原市駅前東館跡地活用	鹿島設計㈱、㈱日本設計			〇〇		
16		海田町庁舎	株式会社現代計画研究所、野沢正光建築工房					
17		神石高原町庁舎	株式会社 NSP 設計			〇		
18		神石高原町くみり保育所	株式会社 NSP 設計			〇		
19		南観音住宅	市浦ハウジング&プランニング					
20		尾道氏土井公民館	シーラカンスケイアンドアソシエイツ				〇	
21	2019	三次市吉舎拠点施設	大旗連合建築設計株式会社	〇				
22		北広島町まちづくり拠点施設	株式会社あい設計	〇				
23		（仮称）鞆町町並み保存拠点施設整備	今川建築設計					
24		東広島市道の駅整備事業	村田相互・アリックデザインスタジオ設計共同体					
25		尾道市千光寺公園頂上リニューアル	青木淳建築計画事務所				〇	
26		庄原市一般廃棄物処理施設	近畿工業株式会社					
27		熊野町東部地域防災センター	大西麻貴・百田有希/o+h				〇	
28		たけはら認定こども園	株式会社あい設計	〇				
29		認定こども園のうみ	株式会社あい設計	〇				

	公営住宅
	学校施設
	行政施設
	拠点施設
	複合施設

4. 国土交通省のマニュアルと広島県

4-1. 国土交通省のマニュアル

本章では、国土交通省が設計者選定を行うためのマニュアルとして2018年に示した「建築設計業務委託の進め方」(文3)の主な記載内容を表3、表4に示す。

4-2. 国土交通省のマニュアルと広島県

第一に、制度導入前の準備段階から建築関係団体との協定や参考自治体の調査を行い、合意形成を基盤として制度を立ち上げていた点である。これは属人的判断に依存せず、組織的・制度的基盤を築いたことによって長期的運用を可能にした。

第二に、企画段階では「案件を切らさない」方針のもと、小規模でも意義あるプロジェクトを対象とし、市町への支援や審査員ネットワークの活用を通じて人材育成と地域建築水準の向上を実現していた。

第三に、発注段階では、国交省が「ひと(者)」の選定を原則とするのに対し、広島県は「案」を重視する点に独自性がある。一次審査から提案を評価対象とし、二次審査では公開プレゼンや市民参加を導入することで透明性を高めた。また、実績と提案の比率を案件ごとに柔軟に調整し、若手設計者の登用と専門性を要する建築の両立を可能にしていた。

第四に、参加資格条件や委員構成においても、門

表3. 交通省のマニュアル

設計者選定方法の種類 [2(2)]	1) プロポーザル方式 業務の内容が技術的に高度なもの 専門的な技術が要求される業務 この方式は、具体的「設計案」を選ぶものではなく、技術提案を評価し、「ひと(者)」を選ぶもの	6-2-7
	2) 総合評価落札方式	
	3) 価格競争方式	
	4) 設計競技方式 当該建築設計業務に <u>象徴性、記念性、芸術性、獨創性、創造性</u> 等を求められるプロジェクト この方式は、具体的な設計案を審査し、最も優れた設計案に基づいて基本設計・実施設計を進めることが適切	
	5) 特命随意契約方式	

表内の○(○)○は、文1で記載されている箇所を示している。

表4. 交通省のマニュアル

公募型、簡易公募型及び標準 プロポーザルによる方式 [4(1)]	○公募型プロポーザル 政府調達協定対象であって、業務規模が政府調達協定の基準額以上となるもの ○簡易公募型プロポーザル ○標準プロポーザル	6-2-2
実施手順 [4(2)]	プロポーザル方式の実施手順を図○に示す。	
選定段階(1次審査)の評価 [4(3)]	得点配分の設定例 ①-1.資格 : 5点 ①-2.技術力 : 20点 合計 : 25点(内訳 ①実績25点)	6-2-3
特定段階(2次審査)の評価 [4(3)]	得点配分の設定例 ①-1.資格 : 5点 ①-2.技術力 : 30点 ②.事業実施方針及び手法 : 65点 合計 : 100点(内訳 ①実績35点、②提案65点)	6-2-3
参加資格条件 [4(5)]	「資格」及び「技術力」のうち必要となる最低限のものを <u>必須条件</u> として設定 優れた設計者を広く求めるという観点から、 <u>参加資格条件は必要最低限のものとする</u>	6-2-4
特定段階(2次審査)における「業務の実施方針及び手法」の評価 [4(7)]	技術提案の表現[4(7)4] 当該プロジェクトに関する具体的な設計案を選ぶものではない 平面図、外観透視図、模型等を求めることはプロポーザル方式の範疇を超えるものである ヒアリングの実施[4(7)5] 必要に応じて、ヒアリングを実施 審査の公平性・公正性を確保するため、会社名及び個人名は <u>匿名</u> とする 提出者同士が顔を合わせることがないように、集合時間の調整する	6-2-5
委員の人数、委員会の構成 [4(11)2)]	委員会の構成 (地方整備局営繕部の場合) ・委員長 営繕部長 ・副委員長 営繕調査官 ・委員 契約課長、営繕部関係課長	6-2-6

表内の○(○)○は、文1で記載されている箇所を示している。

戸開放と参加機会の公平性を重視しつつ、県内設計者・県外設計者・JVを使い分けることで地域設計者の育成を促した。行政職員と学識経験者を組み合わせる委員構成は、制度的妥当性と専門的評価の両立を可能にし、結果として提案の質を高めていた。

5. 総括

5-1. まとめ

広島型建築プロポーザルは提案重視・公開性・人材育成・地域循環といった独自の仕組みを重層的に組み合わせることで、単発事業にとどまらず建築文化を継続的に形成する制度として機能してきたといえる。その持続性は行政のみならず、建築団体、設計者、市民といった多様な主体の協働によって支えられている。

5-2. 今後の展望と課題

今後の展望と課題として、平成24年から続いている広島型建築プロポーザル事業はきっかけは湯崎広島県知事である。来季、湯崎知事は知事選挙に不出馬との意表を發表された。今となつては、体制が整い、完成形に近い形になったが、湯崎知事が変わった後も広島型建築プロポーザルが継続できるかが重要になってくる。

表5. 広島県知事の変遷

代	名前	就任期間
63	湯崎知事	2009年11月29日～2013年11月28日
64	湯崎知事	2013年11月29日～2017年11月28日
65	湯崎知事	2017年11月29日～2021年11月28日
66	湯崎知事	2021年11月29日～2025年11月28日
67	??	2025年11月29日～

参考文献

文1) 建築審議会答申「官公庁施設の設計業務委託方式の在り方」1991.01

文2) 公共建築協会「プロポーザル方式による設計者選定の進め方」2008

文3) 国土交通省大臣官房官庁営繕部「建築設計業務委託の進め方」2018.05

文4) 尾辻自然・小澤丈夫・角哲「札幌市建築部主催プロポーザル方式の運用体制と提案の求め方 - 公共建築における設計者選定のあり方に関する実態調査 -」日本建築学会技術報告集、第20巻、第44号、2014.02

文5) 三浦太一・小澤丈夫・角哲・尾辻自然「群馬県内における設計者選定方式の展開と外部支援団体の役割について」日本建築学会技術報告集、第20巻、第46号、2014.10

注1) 広島市は、昭和24年5月20日から7月20日の間、中島地区を平和記念公園として整備するため、「広島市平和記念公園及び記念館設計懸賞募集要項」(以下「要項」という。)により、平和記念公園及び平和資料館の設計案を設計競技(コンペ)により募集した。応募点数は145点、そのうち、東京大学の丹下健三グループ案が一等となり、平和記念公園等の整備は丹下の案に沿って行われた。

文6) 広島県HP「広島型建築プロポーザル記録誌「HIROSHIMA PROPOSAL」」2022